

令和6年1月29日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

石巻市議会会派 ニュー石巻  
会長 大森 秀一

視察報告書

視察の概要は下記のとおりである。

記

- 1 調査者氏名 大森 秀一、原田 豊、勝又 和宣  
木村 美輝、早川 俊弘、千葉 正幸  
阿部 浩章、高橋 憲悦、遠藤 宏明  
阿部 久一、丹野 清
- 2 視察日時 令和6年1月18日から  
令和6年1月19日まで 2日間
- 3 視察先及び視察内容  
茨城県 守谷市 住み良さランキング1位に向けたまちづくりについて
- 4 視察目的 別頁のとおり
- 5 視察概要 別頁のとおり
- 6 所 感 別頁のとおり
- 7 調査経費 339,084円
- 8 添付書類 別頁のとおり

## 茨城県 守谷市 住み良さランキング 1 位に向けたまちづくりについて

### ・視察目的について

守谷市は、茨城県の南西端、東京都心から 40 キロメートル圏内に位置する。東は取手市、西は常総市、北はつくばみらい市に隣接し、南は利根川を挟んで千葉県野田市 と柏市に相對した市である。高度成長期以降は都心から約 40km 圏内という立地条件を活かし、優良企業の誘致活動や大型宅地開発を推進するとともに都市基盤整備を進めてきた結果、町誕生当時 1 万 2 千人だった人口は平成 21 年には 6 万人を突破した。今後は、市民が真に住み良さを実感できるまちとするため、都市機能と自然との調和、市民との協働によるまちづくりへの取組み等を進めることとしている。

公的統計を基に、それぞれの市が持つ「都市力」を、安心度・利便度・快適度・富裕度の 4 つの観点に分類した「住み良さランキング 1 位に向けたまちづくりについて」を学び、今後の本市の施策の参考とする。

### ・視察概要

東洋経済新報社では、全国の市を対象にランキングを「都市データパック」に集約している。その中で、「住みよさランキング」を毎年公表。「住みよさランキング」は、公的統計を基に、それぞれの市が持つ「都市力」を、安心度・利便度・快適度・富裕度の 4 つの観点に分類し、20 指標についてそれぞれ平均値を 50 とする偏差値を算出、その平均値を総合評価としてランキングしたものである。

守谷市では平成 17 年につくばエクスプレスが開通したこともあり住みよさランキングの 12 位の評価を受けてから、18 年には 11 位となり、19 年は 7 位、20 年には 1 位を取った。

その後、平成 30 年までの期間は 3 位～11 位の間の評価を受ける自治体となった。

当時の守谷市としては、このランキングを意識して 1 位になることを目指したわけではなく、これまでの市民にとっての取組みが評価されて得た結果であった。

令和元年からは評価基準の見直しもあったため、10 位以内に入る実績が残せず順位は降格した。再度一位を目指すことを目標に掲げることで職員の意識改革やモチベーションの維持に寄与すると考えて市長がマニフェストとして掲げている。

街づくりに関しては各地区の町内会組織の上位組織としてまちづくり協議会を設置して、町内会ごとの地域課題を集約して、共通点のある課題などは町内会の垣根を越えた対策を施すなど、合理的な取組みが進められている。

守谷市の市民に向けた発信としてプロモーションビデオを昨年製作。拝見させていただいた。

- 1、守谷の地区でもっと交流しよう
- 2、守谷の魅力をもっと伝えよう
- 3、守谷のファンを増やそう
- 4、小中学生と一緒に守谷を盛り上げよう
- 5、芸術の守谷、スポーツの守谷を守ろう

上記 5 点がプロモーションビデオ製作コンセプトであり、市民へのインタビューを行った中で、守谷市の好きなどを抽出している作り方で、等身大の市民の声をアーカイブで映像化。市外の人へ向けて移住を訴えることが狙いではなく、住んでいる市民に守谷市の魅力を再認識してもらうことが目的とのこと。

定住化に向けて子育て世代への教育の充実を実感してもらう為の施策として、1 年間で 2 期制の導入を行い、出席日数を増やし、1 日あたりの授業時間数を減らした。これにより部活動などの始動と終了時間も早めることができ、帰宅後の学業に向き合える時間を設け、学校と家庭での勉強をつなぐ仕組みを意識して構築した。その他に一人一台のタブレット配布、英語の授業に外国人講師を登用する ALT 制度の導入、プログラミング教室の実施などを行い、文科省大臣が守谷市の教育委員会を視察に訪れたこともある。その財源はふるさと納税の恩恵が大きい。

守谷市には海も無く、農耕も盛んではないため市独自の特産品が少ないのが欠点であるとの説明があった。しかし、アサヒビールをはじめとする有名優良企業の工場などを抱えており、ふるさと納税の納付額は約 50 億円を超える実績を弾き出している。

現在進行中のプロジェクトとしては、（仮称守谷市総合公園整備）プロ野球ヤクルトスワローズの二軍球団の誘致活動を行っており、昨年 11 月に基本協定を締結した。2 つの球場と屋内練習場や本拠地施設を含む公園づくりを進めており、交流人口の増加が期待されている。

人口に関して 20 年間で 1.3 倍の人口の伸び率を記録しているが、人口減少社会の中であって、今後 30 年以降伸び続けるという予測はしていない。人を呼び込むことに成功はしたが、課題として市民が守谷市に留まるような仕掛けを行う必要性を感じていた。

#### ・所感

守谷市はコンパクトシティという呼称がふさわしい自治体であり、利便性の高い施設などが街の中心に集まり、子どものみならず大人にも喜ばれる広い公園が複数あり、運動場も豊富にあり子育て環境も充実している。聞いているうちに、住んでみたいと思う気持ちさえ芽生えてきた。

特に教育の部門に関しては、独自性の強い教育改革を行い、他の自治体との差別化を図っていることが如実に感じられた。ふるさと納税などを活用し、ブレずに教育に対して予算を積み重ねて改革を実行できたのは市長や職員の強い意欲や思いが一つになったからであろう。

住みよさランキング第 1 位を目指す！という施策は実現することが大切なのではなく、目指すことに価値があるという点も、職員の持っている力を最大限引き出す仕掛けにすることは、およそ自治体らしくなく企業に近い大胆な発想に驚かされた視察の時間であった。

#### ・政策提言

石巻市は広大な面積を有し、高齢化率も上昇している。対局的に守谷市はコンパクトシティであり高齢化率も低いことから、お話を伺った全ての取り組みに対して石巻市で実施できるかは不透明な部分はある。

ところが、今回の守谷市の取り組みを知ることで、まちづくりのテーマや指針がいかに大切なのかを知ることとなった。

守谷市長のマニフェストには「住みよいまちもりや」という言葉がある。少しありきたりな言葉に感じるかもしれないが、実際に存在する住みよさランキングに紐付けて発信することで、毎年成果を計ることができるようになっており、市民の関心や行政職員の目指すべき道標になっている。

もちろん、何を掲げるのかという点に関して大切ではあるが、市民や行政や議会が一つの方向に視線を向けられるようなマニフェストを齋藤市長にも是非提示していただきたい。

これまでは復興という名の下に施策を進められてきた石巻市だが、大黒柱のマニフェストを示して石巻市が目指すビジョンをより明確に感じさせて欲しいところである。